

## 用瀬地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月12日（金）19：00～20：10
- 2 場所 用瀬地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 15名  
市出席者 3名（深澤市長、安本地域振興局長、沖田用瀬町総合支所長）



4 テーマ 用瀬地域の活性化 賑わいの再生について

### 5 概要

（地元）

用瀬地域での地域づくり懇談会は4年ぶりとなる。2年前は当初の日程と順延日程とも、地震と雪の影響で中止となった。その間の4年のうちには、飲食店や店舗、ゲストハウスの開業などで用瀬の町にも人が訪れるようになってきている。今回の懇談会のテーマである用瀬地域の活性化、にぎわいの再生について意見交換ができたらと思う。

（市長あいさつ）

先ほどお話があったように、前回はちょうど中部地震で延期し、延期後の日程が雪だったため中止となり、今回が4年ぶりとなった。その間の4年で色んなことがあり、用瀬町の活性化や魅力づくりが着実に進んできているように感じている。

## 用瀬地区の取組みの説明

### <テーマの背景>

用瀬地区は用瀬町の中心地にあり、交通の要所として栄えた宿場町である。県指定の無形民俗文化財「流しびな行事」、歴史文化を感じる旧街道の街並みや梅花藻（ばいかも）が生息している瀬戸川などの風情が今ものこっている。

近年、少子高齢化、過疎化や空き家・空き店舗の増加により、地域コミュニティの活力が失われつつあるが、最近では、空き家の利活用による店舗活用で来訪者が多くなってきている。小さな点と点はできつつあるが、点と線、線と面につながるような賑わいの再生に向けた取組みが必要である。

### <地域の取組>

上記の背景に基づいて、平成30年度、まちづくり協議会と地区公民館を組織上一体化し、新たに地域活性化部会を組織した。また、7月から市の委託を受けて、用瀬地区移住定住運営委員会を設置し、現在空き家リストの作成を行っている。

用瀬地区は流しびな行事をはじめ、地域の祭りやイベントが多く主催事業には公民館の各部が関わり、6集落の各自治会も活発に活動している。

### (地元)

空き店舗の入居について補足すると、3年前にカフェの「川のhotori用瀬」が、2年前には大学生による「週末住人」のゲストハウスがオープンした。今年は駅前の「ねじまき鳥靴工房」とシルバーアクセサリーの「バニーリンゴ」、食事処の「蔵-kura-」、カフェの「無名庵」がそれぞれオープンしたという状況である。

また、別府の小水力発電所が昨年竣工し、別府の歴史書の発刊もされた。

### (地元)

資料に用瀬地区移住定住運営委員会を設置と書いてあるが、この委員会ではどのような方が委員になっているのか。

### (地元)

各区の区長等を含めた合計9名で会議を行っている。今時点で3回ほど会議を行い、用瀬地域の空き家のうち、住むことのできるものを確認しているという状況である。

### (地元)

鳥取市全体で空き家がとても増えていると思う。旧市域もシャッターで閉鎖されているところもある。こういったことに対しての直近の施策を聞きたい。

### (市長)

空き家の対策には大きく2つあると思っている。1つは、活用ができる空き家を移住定住の促進等に活用していくというもので、もう1つは、老朽化が著しく、倒壊の危険があ

る空き家をどうするかというものである。鳥取市では空き家対策のために条例を制定した。国も法律を制定した。老朽化が進んで危険な状況の空き家について、これまで所有者の理解や了解をいただかないと対応ができなかったが、段階を踏んでできるようになった。

今は、空き家、空き店舗を活用していく取組みが、全国の自治体で行われている。鳥取市では今リノベーションに取り組んでおり、集まった方に色々なアイデアを出していただき、所有者の方の理解や了解を得た上で、改修をしてよみがえらせている。鳥取市は平成26年からこの取組みを進めている。

また、移住定住の促進等に活用していくため、空き家バンクに登録していただき、空き家を活用したい方とのマッチングを行っていく取組みをしている。人口減少が全国的に進んでいるので、空き家はこれからも少しずつ増えていく可能性がある。空き家をまちづくりに活用していくことがこれから大切になるのではないかと考えている。ぜひ皆さんからも、アイデアを出していただければありがたい。

(地元)

空き家バンクに登録されている空き家に移住や定住の問い合わせがきて、実際に入居する件数は年間どれくらいあるか。

(地域振興局長)

去年空き家に何人入居したかが分かる資料は今手元にはないので、関連した情報を紹介すると、宅地建物取引業協会東部支部にも空き家バンクがあり、数は多くないが情報が公開されており、誰でも自由に買って入居できる。

空き家の移住希望者の方とマッチングをする取組みについては、鹿野あたりでは次々と契約が成立しており、空き家の確保が難しい状況だと聞いている。地域振興課では今年の7月現在で18戸の空き家を持っている。

移住は、希望者が住みたいと思う地域であり、そこに入居できる空き家があって初めて成立するので、地域のまちづくり協議会やNPO法人などに窓口になって頑張ってもらっているという状況である。

(地域振興課補足)

地域振興課で所管している空き家について、直近3年間では平成27年度に13件、平成28年度に18件、平成29年度に13件が入居決定となっています。

(地元)

保育園が来年の4月から新しくでき、今の保育園が空くことについてどう考えているか聞きたい。

(市長)

結論を言うと、まだ具体的な活用策は決めていない。地域の皆さんから、活用についての意見やアイデアをお聞きし、それを尊重しながら利活用の方策を決めていきたいと考えている。今のところ具体的なアイデアはないということであれば、利活用策等々について、一つの案を示させていただく方法もあるかと思っている。

(地元)

利活用について市の方針が特にないということは、どのようなものに活用してもいいということだろうか。例えば、製造工場や宿泊施設としてもいいのだろうか。

(市長)

何でもいいということではないが、今例示していただいたようなものは可能だと思う。極端におかしいと言われるようなことでなければいいと思う。

(地元)

支所長は現地の責任者として、何か考えはないだろうか。

(地元)

地域の保育園の跡をどうするのかということなので、まずは地域で考えることが一番重要だと思う。まずは地域で考える組織を作り、考えてみてアイデアがないときに行政から少し助言をもらうというのがいいのでは。

(用瀬町総合支所長)

大村ではこの件について検討委員会を立ち上げて検討している。社では特に委員会は設けていないが、役員の意見としてはいろいろ出ているようだ。用瀬については、例えば用瀬アルプスがあるので、そのビジターセンターのようなものに活用したらどうかという声や、宿泊に使えないかという声を聞いている。地域で話をまとめていただいて、こういうものに使いたいという相談をいただいたら、こちらでもできることはやりたいと思っている。

(地元)

まずは先ほど話があったように、組織を作ればいいのではないかな。

(地元)

県外からもたくさん人が来られるが、この用瀬には宿泊施設がない。私はこの保育園には入ったこともないが、宿泊施設等にも活用できるならいいのではないかなと思った。

(地元)

保育園だけでなく商工会の事務所も空いているので、色々考えてもらえたらと思う。

今日のように色々な活動をしているグループで一堂に会するという事は初めてだ。町の活性化ということで目的は同じだが、それぞれ中身が違う。なので、やはり区長さん方が中心になって、上手にまとめていただけたらと思う。

(地元)

10年、15年前までは、何かやるとなると、行政から話ができることが主だった。しかし、ここ2、3年からは、いかに行政を抱き込んで、我々の思うほうに持っていかということが全体のやり方となっている。

まちづくり協議会が結成された当時と今とでは大分目的が変わってきている。我々もまちづくり協議会の最終目標とすべきものはどこなのかをはっきり決めないといけない。もちろん市と方向が異なってもいけないので、相談しながら進める必要がある。

これから70歳までの働き方が国の方針として検討されていく中で、日中の町の中には若者がいなくなっていく。高齢者の力をいかに引き出して上手に使っていくかがまちづくり協議会の一番の目的であって、そのことを指導するのが市なのではないかと思う。

保育園の問題についても、地区のやりたいことを支所長に伝え、支所長から市長へ伝えてもらえたらいいと思う。

(地元)

先ほど保育園の跡地利用や委員会の立ち上げという話あったが、その場合は人選を考えていただきたい。この地域では、地域愛があって、熱いハートを持っている方たちが動いているが、集まりにはいつも同じような顔ぶれで、同じような意見しか出てこなかったりする。

本当は何か大きなテーマがあって、どのように用瀬地域を持っていくのかということが必要ではないかと思う。魅力を探していくばかりではなく、なぜ若者が用瀬から出ていくのか、どの辺に魅力がないのか、その悪い部分も探っていく必要もあるのではないか。高齢者も大事だが、将来性のある地域づくりを考える上で、もっと若い世代も入れながら、保育園の利用等を考えていったらどうかと思っている。毎回同じ顔ぶれなので、同じようなことになっていくのかなという不安がある。

(地元)

4区には、狭いながらも芝生が整備され、そこで孫がよく遊んでいる。あの広い園庭で遊ばせてもらえると、安心して孫を見られると思う。

1区の若いお母さんたちがこの前、無名庵に来てくれた。どの方も赤ちゃん連れて、子どもがたくさんいるお母さんたちだった。そういった方々も用瀬のことを考えてくれる力になるのではないかと思った。

(市長)

住みなれた地域でみんなが安心して、心豊かに暮らしてよかったなと真に思えるような

地域を目指していくというのが我々行政の究極の目標だと思っている。全国で人口が減り、高齢化も進んでいるが、将来に悲観をすることはなく、新しい時代に我々は進んでいこうとしている、と考えるべきではないかと思う。そういった中で、高齢者のみなさんにもうひと頑張りしていただき、豊かな経験や見識を生かして、社会に役立ててもらおう時代になってきているのではないかと思う。そのためには、健康であり続けるための取組みをやっていくことが前提であり、鳥取市も今まで以上に力を入れていきたいと思う。

地域で、身近な方との確かなつながりを今まで以上に大切にしていくことを一人ひとりが心がけていってはどうだろうか。地域共生社会という言葉を使っているが、みんなが互いを尊重して、支え合ってそういう地域をつくっていかうということであり、鳥取市が目指していこうとしているところである。

保育園の跡地活用については、新たなメンバーでという提案もあったので、地域の皆さんでそういう組織を検討いただければと思う。

(地元)

今、1区がベビーブームで、赤ちゃんから中学生までの年代が30人ぐらいいる。用瀬地区では一番子どもが多い地区になった。1区では若いお母さんが月に1回ほど集まって女子会を行っている。地域で近所同士が仲よくすると、若いお母さん同士で地域の行事にも出てくれるようになってくる。

また、昨年私の娘とその友達が2人で勝手に顔をペイントして町中をうろうろ回ってあめをもらってきたことがあった。このことを男同士で勝手に作ったパパ会で話をしたら、区の少年部で子どもを集めてハロウィンをやるかという話になった。空き店舗を活用して、コミュニティスペースができ、近所付き合いもまた密になるといういい流れに、1区はなっているのかなと思っている。隣近所の付き合いが一番大事なのではないかなと感じている。

(市長)

昨日米子で全国の市町村サミットがあり、まさに今お話いただいたようなことがテーマの1つになっていて、色んな議論をしてきた。

1つのちょっとしたつながりがまた次のつながりに派生していく。子どもたちのつながりが親同士でつながって、そういうことを一つひとつ広げていければ、地域での確かなつながりを作り出していけるのではないかと思っている。そういった形が用瀬町1区では既にできているということで、とてもすばらしいと思った。

(地元)

光通信網の整備についてだが、佐治町と用瀬町に光通信が来ていない状況である。各地域と比べると劣る点なので、何かいい施策があれば教えていただきたい。

(市長)

光通信や光回線サービスは、基本的に電気通信事業者が取り込まれることである。用瀬、佐治エリアについては、まだ参入されていない状況である。これは事業者が採算性等を見極め、判断しておられるのだと思う。光回線サービスの実現のためには、まず地域の皆さんからの生の声が必要だと思う。我々も事業者に対してこういった要望があるということ伝えていきたい。

鳥取市では平成16年度から18年度にかけて、合併特例債を活用した、ケーブルテレビ網を使ったインターネットサービスに取り組んできた。用瀬町はケーブルテレビの加入率が少し低いエリアになるのかと思う。このケーブルインターネットも120メガbpsとかなりの速度があり、情報量が多く扱えるので、こういったものを活用していただくことも一つの方法だと思う。

エリア拡大については、事業者にも折々お願いをしていきたいと思う。地域の方でも、利用したい、必要だという声を上げていただき、両方の作戦でいけたらいいと思っている。

(地元)

声は上げているが、一向に届かない。市にも話したことがある。

(市長)

市はもちろん承知をしている。事業者については、需要があり、事業として採算性があるということであれば、事業展開していくと思う。それを直接ぶつけていくことが効果的ではないかと思っている。以前、通信速度が上がらないかという要望もあったが、あまり使われる方が少ないと事業者も展開していくことにはならないと思う。地域と行政の両面作戦でいけば実現していけるのではないかと思う。

(地元)

進め方としては、地域の需要を数字で出していくということか。日本海ケーブルとびょんびょんのサービスに差があり、利用しづらい。

インターネットを市に何とかしてということではないが、例えば、今後子どもたちが外に出ていった場合、向こうでとても快適な生活を送ると思う。その後、何かのきっかけで鳥取に帰ってくるというときに、ここは光回線がないのかとなってしまう。

空き家についても、空き家バンクで一応リスト化しているが、リスト化されている建物にすぐ住めるかというところではない。

ネットの選択肢も少ない。自分で仕事をしようとしたら情報をこちらからアップロードすることが多いが、インターネットの速度が遅いことはとてもストレスになる。住む地域は用瀬以外でもいいという移住希望者がいれば、ネット環境のいい地域を最終的には選ぶと思う。建物についても、整備されていないところより、整備された他の地域を選ぶと思う。地域としても声を上げるが、市としてもバックアップをしていただきたい。

(市長)

NTTと通信各社にも鳥取市からそういう要請をしている。地域の皆さんからも生の声を上げていただくと、非常に効果的だと思う。

(地元)

この件については、また区長会と総務会の中で検討していきたい。

(地元)

昨日だったか、市長と週末住人の方とのお話が新聞に出ていた。観光ツアーを呼び込む話し合いをしていたときに、彼はいつまで用瀬にいるか分からないと言われていた。そういう言葉が出ないよう、町の人でバックアップできたらと思った。

(市長)

彼も県外から環境大学に入学され、大学卒業後も引き続き当面は鳥取に残って大学院に進むと聞いている。その後どうするかというのは、分からないということかもしれない。

彼も用瀬町の魅力を十分感じている若者の一人なので、そういうことを感じて、ここで定住したいという思いになっていただけるのではないかと思う。

(地元)

彼の話について、みんなも何となくその危険を感じていると思う。用瀬が嫌というのではなく、ここで仕事をしていくことへの不安があるのではないか。

ここで仕事をしている身としては、自分の仕事が進められるようだったら難しいなと思っている。今のところは子どもも育てていけるぐらいの収入をここで得られている。ここでも仕事ができると思える雰囲気を、ちゃんと町が作っていくことが重要だと思う。

用瀬町では今、何かをしていいんだという雰囲気が出てきたのかなと思う。用瀬で活動したいという作家さんが、私が把握しているだけで3人いる。しかし、3人とも活動できる場所がない状況である。今の用瀬の雰囲気がいいから用瀬でやりたいと言っているが、それを実行に移せる物件がない。対象の物件はあるが、どうも動きが悪い。

私だけが頑張ってもだめだと思う。外から人が入ってきたら今の雰囲気がもっと大きくなるのに、今の用瀬はそれができない状況にある。その点がうまくいったら、みんながこの先もやっていけると思える雰囲気になっていくのではないかと思う。そのためには、この町で何をやっても何か大丈夫そうだと思うような雰囲気をしっかり捉えていきたいと考えている。

(市長)

鳥取市は若い方が色んなことをしやすい土地柄ではないかという評価もされている。我々にもお手伝いをさせていただける部分があるかもしれない。何かもう一押しすればそ

ういう若者が集まって、そこで自分のやりたいことを伸び伸びとやって活躍される町ではないかと思っている。何か後押しをしていけるようなことがあれば、我々も具体的に検討させていただきたいと思う。

鳥取市には、ふるさと就農舎という施設があり、農業をやりたいという若者が全国から集まってきて、一定期間研修をして、ひとり立ちしていく。農業で生計を維持するのはなかなか難しいが、そこをチャレンジしていこうという若者も何人かいる。自分のやりたいことが何なのかと、それを用瀬町でやれるのだということがあれば、我々も何かできることがあればお手伝いさせていただきたいと思っている。

（地元）

来年は用瀬駅の開業100周年を迎える記念すべき年になる。何とかこれを佐治の地域と絡めながら一緒になって盛り上げていきたいと思うので、支援いただけたらありがたい。

（市長）

鳥取市も市ができて130周年となり、新しい庁舎もできる。そういった大きな節目の年に用瀬駅も100周年という節目を迎えられる。何か記念イベントのようなことができたらいと思う。また、それを機にこの用瀬町が盛り上がって活性化が図られたら、非常にいいと思う。

（市長あいさつ）

用瀬町は、私もよく来させていただくが、上方往来の情緒が町並みの中で随所に感じられ、いつもとてもいいところだなと心底思う。用瀬アルプスも最近登山道が国土地理院の地図に記載されてから、全国的にもよく知られてきたように思っている。流しびな行事も国内外に誇れるすばらしい伝統行事だと思っている。まだまだ探していけば、すばらしい資源がたくさんある地域だと思うので、そういったものをみんなで共有し、活用しながら将来に向かって進んでいけば、非常に明るい展望が持てるのではないかとと思っている。

山陰道西道路も、国は来年の夏までにとっているが、もう少し早く供用開始になると聞いている。鳥取道と西道路がつながれば非常に交通アクセスがよくなって、この用瀬町もさらに活性化が進んでいくのではないかと大いに期待している。こうしたほうがいいじゃないかというような意見や考えがあれば、どんどん教えていただければと思っている。

（用瀬町総合支所長）

本日の話の中で、お互いの考えや情報をやりとりし、意思疎通を図ることが重要だと改めて感じた。特別な会議を持たなくても、普段のつき合いの中で話を聞かせてもらうこともできる。必要ならこういった席をまた設けたらいいと思う。これからも一緒に地域の活性化を進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。